

授業科目	*卒業研究(スワンソン)			実務家教員担当科目	-
単位	4.	履修		開講年次	4
担当教員	Malcolm Ross Swanson				
授業概要	<p>3年次の「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」とは異なり、通年科目であるため、1年間(30週)を見通した授業体制となる。受講生は原則的に3年次と同一であるため、継続指導をしながら、4年間の集大成としての卒業論文完成を目指した総合指導となる。なお、2週目以降の詳細は、各担当者が英語学科DPの9項目を充たす指導内容を組み立てて、授業時に提示する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際的視野・地域的視野での、さらに豊かな教養と幅広い知識を身につけることができる。 2. 英語に関するさらなる深い知識と運用能力を身につけることができる。 3. 現代社会の諸問題について深く論じ、問題があればその対応策を十分に考えることができる。 4. 英米文化のみならず世界の文化に関心を持ち、理解を深めるためのさらなる意欲を身につけることができる。 5. グローバル社会の中で、他者と協働してさらに良い環境を創り出すことができる。 6. 国際社会の一員として、これまでの経験を活かして、積極的に責任ある役割を果たすことができる。 7. 国際社会・地域社会の発展に、各自の能力や知識を、これまで以上に役立てることができる。 8. どのような相手に対しても躊躇なく、協働可能なコミュニケーション能力を身につけることができる。 9. より高度な情報収集・情報処理能力を身につけることができる。 				
授業形態	講義・演習	授業方法	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション		
学生が達成すべき行動目標					
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際的視野・地域的視野での、さらに豊かな教養と幅広い知識を身につけることができる。 2. 英語に関するさらなる深い知識と運用能力を身につけることができる。 3. 現代社会の諸問題について深く論じ、問題があればその対応策を十分に考えることができる。 4. 英米文化のみならず世界の文化に関心を持ち、理解を深めるためのさらなる意欲を身につけることができる。 5. グローバル社会の中で、他者と協働してさらに良い環境を創り出すことができる。 				
理想的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会の諸問題について深く論じ、問題があればその対応策を十分に考えることができる。 2. グローバル社会の中で、他者と協働してさらに良い環境を創り出すことができる。 3. 国際社会の一員として、これまでの経験を活かして、積極的に責任ある役割を果たすことができる。 4. 国際社会・地域社会の発展に、各自の能力や知識を、これまで以上に役立てることができる。 				
評価方法・評価割合					
評価方法	評価割合(数値)			備考	
試験					
小テスト					
レポート					
発表(口頭、プレゼンテーション)	40%				

レポート外の提出物	50%										
その他	10%		授業貢献度で評価します。								
カリキュラムマップ (該当 DP) ・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	EN31604J/E
学習課題 (予習・復習)										1回の学習目安 (時間)	
各担当教員からの指示に応じて、卒業論文作成に関わる予習・復習を繰り返すことになる。										4	
授業計画											
第1回	<p>テーマ：オリエンテーション(各担当者による教科運営に関する詳細な説明など)</p> <p>3年次の指導内容を顧みながら、4年次の授業に臨むための体制作りを行う。第2週目以降の授業進行の詳細は各担当教員より提示されるが、DP9項目を念頭に置いた指導内容になる。</p>										
テキスト	担当教員ごとに紹介します。										
参考図書・教材 /データ ベース・ 雑誌等の 紹介	担当教員ごとに紹介します。										
課題に対するフィードバックの方法	Regular feedback will be provided by the teacher orally during class.										
学生へのメッセージ・コメント	<p>卒論は、指示したペースを守って、小さな締切を確実に守って下さい。</p> <p>進め方がわからなくなった場合には、すぐに研究室に質問・相談に来て下さい。</p> <p>「小さな締切をサボる」→「相談に来づらくなる」→「更に次の締切に遅れる」→「卒論が進まない」という悪循環にならないように十分気をつけて下さい。</p>										